

高野山
鳥瞰圖
昭和九年春
初三郎



『高野山図絵 [高野聖山鳥瞰図]』
(昭和9 (1934) 年4月5日)
高野山仏具名産品商業組合発行
犬山の蘇江画室、観光社関西支社印刷



大正・昭和の鳥瞰図絵師
連載一第0回
吉田初二郎の世界



高野山図絵 高野聖山鳥瞰図・高野山鳥瞰図

文・藤本一美

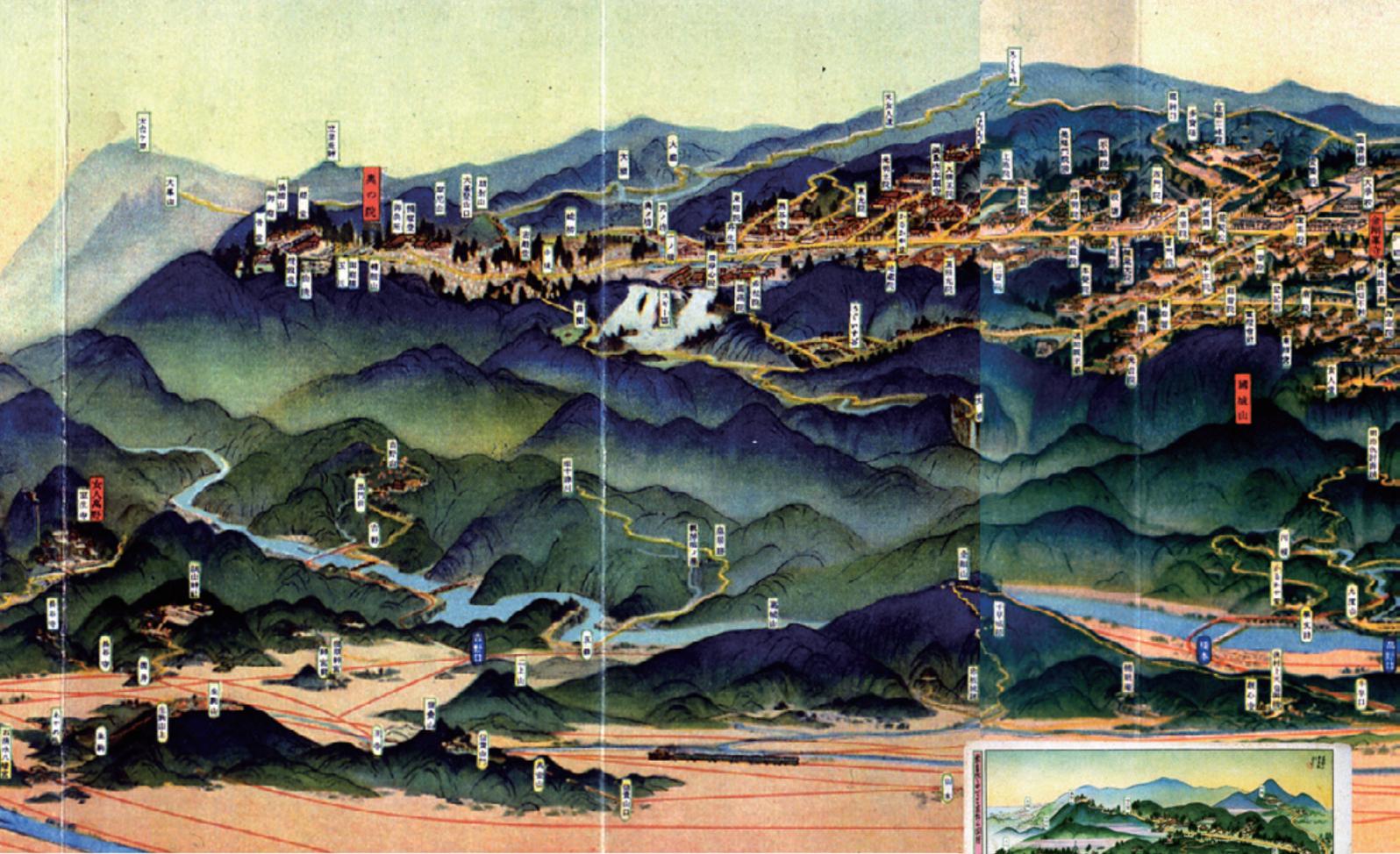
text by Kazumi FUJIMOTO

南海電気鉄道（南海電鉄）の前身は、明治十八年難波―大和川間を開業した阪堺鉄道に始まる。明治三十一年には新設の南海鉄道と合併。以後、四十二年に競合路線の浪速電車軌道、大正四年には同じく阪堺電気軌道を続々と合併。そして、大正十一年九月に大阪高野鉄道、高野大師鉄道を合併しているが、初三郎はその半年程前の二月に「高野電車治線名所図絵」を刊行している。

大阪汐見橋を起点として、住吉、堺、長野を経由して高野山麓の橋本に達する路線と高野山上の二大宗教・観光都市―平安初期の僧・弘法大師（空海）が八一六年、嵯峨天皇の勅許を得て開山した金剛峯寺を中心とした僧院、住宅、学校などを立体絵地図風に描画した作品である。

初三郎の「絵に添へて一筆」によれば、本図絵完成の志を立て、踏査が実現したのは、大正九年春のこと。

藤本一美
首都大学東京（都立大学）非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



「常喜院を中心とする高野山図絵繪葉書」(昭和9年)



南海電気鉄道株式会社
Nankai Electric Railway Co., Ltd.

創業：明治18（1885）年12月27日
設立：大正14（1925）年3月26日
本社：大阪府大阪市中央区難波5丁目1番60号

南海電気鉄道株式会社 路線図

Fine & Bright NANKAI お客さまとともに

大阪府南部と和歌山県北部を基盤として、大阪の難波から和歌山・関西空港・高野山などを結ぶ南海電鉄。社名の「南海」とは律令制の南海道（紀伊国・淡路・四国）に由来する。南海線（南海本線と4つの支線を総称）、空港線、高野線（鋼索線含む）、全154.8kmの営業路線を702両の列車が運行している。グループは運輸、不動産、流通、レジャーサービス、建設、その他の6セグメントから成り、「Fine & Bright NANKAI お客さまとともに」のスローガンのもと、企業としての社会的責任を果たし、各分野で堅実な成長を重ねている。

以来、二月月を費やして絹本天地三尺五寸、横幅一丈六尺にわたる原画を完成した旨が記されている。

印刷折図・原画とも、その沿線の様子と山上都市の全貌がひしひしと伝わってくるが、橋本から九度山町、矢立を経て山上大門終点に至る延長線は、計画線として記載されているものの実現しなかった。

それに変わる初三郎作品が、昭和九年、弘法大師一千百年御遠忌記念出版の「高野山図絵」で、改訂版ともいえる本図である。

大正十四年三月に設立した高野山電気鉄道は、高野下―紀伊神谷間の開通に始まり、昭和七年には南海鉄道との相互乗り入れを実施し、難波―高野山間の直通運転を開始した。この高野山電気鉄道が、戦時中の合併分離を経て、昭和二十二年、社名を改め発足した南海電気鉄道の母体となり、現在の路線網に至っている。

よく見ると、極楽橋から高野山までの鋼索線もしっかり描画。乗車すれば高野山上への誘いの旅が待っている巧みな筆致である。また、鳥瞰図そのものが機密保護上スパイ扱いとなり、由良要塞司令部の検閲済印には暗い世相を感じさせるが、富士山や滝、電車など絵的に「遊び心」に満ちた楽しい図絵といえるだろう。